

# キリストは一度すべてのために死なれた

キー・ヴァース「キリストは、人間の手で造られた、まことの聖所の模造品にすぎない聖所に入られたのではありません。」

ヘブル9:24

厳選された聖典

ヘブル9章23節-28節

歴史的な観点から見ると、この手紙は1世紀の過渡期に教会に向けて書かれたと思われる。当時のユダヤ人信者は、コルネリオとその一家への聖霊の注ぎの後、異邦人がアブラハムの約束にアクセスできることを受け入れることに、全体として大きな困難を感じていた。「聖霊はメッセージを聞いたすべての人の上に臨んだ。ペテロと一緒に来ていた割礼を受けた信者たちは、異邦人にも聖霊の賜物が注がれた

ことに驚いた。彼らが異言を語り、神を賛美するのを聞いたからである。

するとペテロは言った、「確かに、彼らが水でバプテスマを受けるのを邪魔する者はいない。彼らは、私たちと同じように聖霊を受けているのです」 使徒言行録**10:44-48**

「キリストは今、来たるべきすべての良きものの上に立つ大祭司となられた。キリストは、人間の手によって造られたのでもなく、この創造された世界の一部でもない、天にあるより偉大で完全な幕屋に入られた。やぎや子牛の血ではなく、御自身の血によって、御自身が一度だけ至聖所に入られ、私たちの贖いを永遠に確保されたのです。旧体制の下では、山羊や雄牛の血と雌牛の灰が、儀式的な不浄から人々の体を清めることができた。キリストの血は、私たちの良心を罪の行いからどれほどきよめ、生ける神を礼拝できるようにしてくださることでしょう」 ヘブル**9:11-14**

異邦人への使徒として、パウロはクリスチャンの苦しみの哲学をはっきりと理解していた。(コロサ

イ1:24)。イエスの苦しみと死から、教会と世界の両方に永続する命の祝福がもたらされる。イエスとともに死に、イエスとともに苦しむ者たち（ ）は、神の計らいによって、兄弟たちのために命を捨てる今、教会に、そしてやがて地上のメシヤ王国の世に、他者の永続的な福祉に貢献するのである。マタイ6:10

さらに聖書は、キリストの血を流すことによる犠牲の死が、エデンでの不従順によるアダムの原罪を取り除くために、神の王国の間にどのように適用されるのか、その効力を非常に明確に断言している。ヘブル9:22-23

私たちのキー・ヴァースは、キリストはすべての人のために一度死なれたと主張している。現在、キリストの弟子である者は、忠実であれば、天の報いを受ける望みがある。それ以外の者はすべて、来るべき時代に従順と義の原則を内面化することによって、地上の命を得る機会が与えられる。

神はご自身の計画の中で、現在、ご自分に従って生きる人々に特別な位置を置いておられる。彼らは御

霊に生を受けた新しい被造物となり、和解の務めが与えられている。(2コリント5:17-20)。キリストの流された血は和解の基礎であり、いのちに至る唯一の道であるこの道（ ）を人々に指し示すことは、私たちの特権である。これは、キリストの王国が活動し、聖徒がキリストとともに君臨する未来の偉大な仕事である。(黙示録20:6)。しかし、私たちは今できることをしなければならない。今の私たちの犠牲的な努力は、後の大きな機会のための訓練なのだ。私たちが明日の偉大な仕事を分かち合うに値するかどうかは、今日の同胞に対する愛に満ちた関心にかかっている。